

令和元年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	110	伝統文化を継承、発展させ、新たな文化・芸術を創造する
施策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる
施策の目標	すみだの歴史や文化に区民がふれることで、郷土に対する理解・愛着が深まり、さらに区民が将来にわたり伝統文化を継承、発展させ、文化財が大切に保護されています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指 標 名	「伝統文化が保護、継承されている」と思う区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	71.6				77.0					80.0
実績										
指 標 名	「墨田区の歴史や文化を学んでいる」区民の割合									
	基準年 (H28)	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	24.1				39.0					50.0
実績										

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移（千円）	
・北斎作品(浮世絵)は大変脆弱であり、文化財保存の観点からも長期の展示は不可能であることから、円滑な事業運営や運営経費圧縮のためにも、可能な限り自館の収蔵資料数を増やせるよう収集に努めていく。 すみだ北斎美術館については、平成28年11月に開館し、来館者数は目標を大きく上回っている。今後も、北斎の魅力を伝える展覧会事業やイベント等の充実を図っていく必要がある。 また、平成26年より開始した寄付キャンペーンについては、当初の目標額5億円を達成することができた。今後も、美術館の管理運営、資料収集等に充てることを目的に、継続して実施する。 ・大江戸すみだ職人展は、来場者を増やすことを目的に、特に30年度から、北斎美術館に実施場所を変更しプロモーションを工夫したことにより、来場者の客層や数に変化があったと感じている。よって、現在の実施方法を更にブラッシュアップしながら、事業を継続していきたい。	H28	207,452
	H29	267,520
	H30	269,690

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	・すみだ北斎美術館は、想定を上回る来館者が訪れているものの、来館者数は落ち着いてきている。企画展や教育普及活動等にて、よりすみだと北斎の魅力を発信していく必要がある。平成30年度の寄付キャンペーンは約1億5,000万円の寄附金が集まった。 ・大江戸すみだ職人展は、実施場所の変更やプロモーションの工夫(北斎美術館における実施、職人による実演や工芸品展示のほか、職人・制作品を紹介するパネルの展示と工芸体験の実施など)により、従来より多くの方に関心を持っていただけたと感じており、それが3,802人の来場者数に繋がった。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
・「すみだ 北斎美術館」を区の文化創造や地域活性化につながる施設になるよう、資料の収集保存、展示、情報提供、教育普及の事業活動を通じて地域文化の継承と発展の場として運営するため、今後も計画的な資料収集と美術館運営及び北斎に関するPRを行っていく必要がある。 ・大江戸すみだ職人展は、平成30年度の実施結果が良好だったことから、現状をベースにしながら、さらに工夫を凝らした職人展を実施することで、来場者の一層の増につなげたい。	
【今後の具体的な方針】	
・「すみだ 北斎美術館」の円滑な事業運営を行うとともに、引き続き資料収集や寄付キャンペーンを行っていく。また、東京2020オリンピック・パラリンピックを見据えて、北斎及び北斎美術館について、国内外に向けて情報発信を行っていく。 ・大江戸すみだ職人展は、来場者と職人の距離が近いことがこの事業の大きな強みで、平成30年度は「見られる、話せる、ふれられる」を副題においた。今後もこの利点をより生かした事業展開を行う。	

施 策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる				部内優先順位
事 業 名	すみだ北斎美術館管理運営費					1
目 的	平成28年11月に開館したすみだ北斎美術館の適切な管理運営に努め、PR事業を始め、資料収集、すみだと北斎のPR及び施設の充実を図る。					主管課・係（担当）
						文化芸術振興課文化芸術・国際担当
						5608-6115
対 象 者	区民及び本区への来街者、北斎に関心のある層					
根拠法令 関連計画	すみだ北斎美術館の管理運営に関する条例及び同施行規則					
実施基準	区独自基準	実施方法	全部委託	人員体制・委託先	墨田区文化振興財団・丹青社共同企業体	
事業内容	本区で生まれた世界的絵師・葛飾北斎を区民の誇りとして顕彰する「すみだ北斎美術館」の管理運営を行い、区民が文化・芸術にふれる機会を創出するとともに、文化・産業・観光等の地域活性化の拠点として展開する。					
経 過	開始年度	平成28年度	終了予定	未定		
	平成27年度 指定管理者決定 平成28年度 建築竣工、11/22開館 平成29年度 開館1年目の目標来館者数20万人達成（4月） 平成30年度 来館者数50万人達成（7月）					
議会質問 の 状 況	■平成30年11月 第4回定例会 Q 来館者数、観覧料収入が開館当初と比べ減ってきている。平成29年度には月平均2万人だった来場者が、平成30年には1万5,000人を割り込む結果となっている。10年先、20年先にはどうなるのか。このままでは区財政の重荷になるおそれが予想されるが、どのような対策が必要と考えているのか。 A 平成28年11月の開館から2年が経過し、これまでに56万人以上の方にご来館いただいている。一般的に美術館の来場者は開館初年度をピークとして年度を経るごとに減少しますが、一定のところで安定する傾向にあり、すみだ北斎美術館についても同様の傾向にあると考えている。今後については、他館からの重要作品の借り入れ、魅力的な企画展の実施、常設展示の工夫などにより来場者の確保に努めるとともに、支出の削減を図り、効率的な館の運営を指定管理者に求めていく。					
そ の 他 特記事項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 企画展スケジュール(予定) ・北斎のなりわい大図鑑:4月23日(火)から6月9日(日)まで ・綴プロジェクト 高精細複製画で綴るスミソニアン協会フリーア美術館の北斎展:6月25日(火)から8月25日(日)まで ・北斎没後170年記念 茂木本家美術館の北斎名品展:9月10日(火)～11月4日(月・祝)まで ・北斎没後170年記念 北斎 視角のマジック 小布施・北斎館名品展:11月19日(火)～2020年1月19日(日)まで ・「北斎師弟対決」(仮題):2月4日(火)から4月5日(日)まで					

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算現額（事業費）				99,249	142,227	200,079	161,354
決算額（令和元年度は見込み）				87,439	137,512	195,805	161,354
財 源	国						
	都						
	その他			18	32,684	99,928	60,000
一般財源		0	0	87,421	104,828	95,877	101,354
執行率（％）		#DIV/0!	#DIV/0!	88.1%	96.7%	97.9%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成２９年度（決算）			平成３０年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
報償費	資料収集委員会外謝礼	188	報償費	資料収集委員会外謝礼	188	報償費	資料収集委員会外謝礼	304
需用費	消耗品購入	297	需用費	消耗品購入	208	需用費	消耗品購入	303
委託料	指定管理料	104,341	委託料	指定管理料	159,090	委託料	指定管理料	160,284
備品購入費	資料取得経費	32,620	備品購入費	資料取得経費	39,927			
事業の成果	手段に対する指標 （活動指標）	指標	メディアへの掲載数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		60	R7	目標	60	60	60	60
				実績	73	102	78	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	60	60	60	60	60	60
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	北斎美術館のメディアへの掲載数で、宣伝・広報の成果を図る指標となるため。目標値については、来館者数が安定していく中でも、高い注目度を集めるべく本数値に設定した。							
	目的に対する指標 （成果指標）	指標	すみだ北斎美術館への来館者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		95,000	R7	目標	80,000	321,000	220,450	171,000
				実績	177,707	262,634	177,188	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000	95,000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	区民をはじめ、区外及び海外からの来訪者が、どれだけ北斎の魅力を体感したかを図る指標となるため。目標値については、開館当初に想定していた、開館3年目以降の来館者数を設定した。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	来館者数は安定してきており、引き続き適切な管理運営に努めていく。また、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、企画展等を充実していく必要がある。

課題・問題点
管理運営業務は要求水準どおりに適切に実施されているが、要求水準に掲げる公開承認施設の認定に向けた活動を着実に実施する必要がある。 入館者数を確保していくため、広報や企画展の充実を求めるとともに、支出を抑え、安定した館の運営を行っていく必要がある。

施 策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる				部内優先順位
事 業 名	すみだ北斎美術館寄付キャンペーン経費					2
目 的	平成28年11月に開館したすみだ北斎美術館の適切な管理運営に努め、PR事業を始め、資料収集、寄付キャンペーンを実施し、すみだと北斎のPR及び施設の充実を図る。					主管課・係（担当）
						文化芸術振興課文化芸術・国際担当 5608-6115
対 象 者	北斎及びすみだ北斎美術館へ関心がある層、本区へのふるさと納税による寄付を検討している方					
根拠法令 関連計画	墨田区北斎基金条例、墨田区北斎基金寄付金取扱要綱、墨田区文化観光基金寄付金取扱要綱					
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	株式会社トラストバンク	
事業内容	すみだ北斎美術館の管理運営費、資料収集、北斎をテーマとしたアートプロジェクト等へ充てることを目的に寄付キャンペーンを実施している。ふるさと納税制度を活用して寄付を募集しており、返礼品にはすみだモダンをはじめとした地場産品を希望者に送付している。					
経 過	開始年度	平成27年度	終了予定	未定		
	平成27年度 インターネットによる寄付募集（北斎ふるさと納税）開始 平成28年度 目標寄付金額（5億円）の達成 平成29年度 墨田区文化観光基金への寄付受入開始					
議会質問 の 状 況	・ふるさと納税による収入を北斎美術館の特定財源であるかのように扱っていることも問題 ・ふるさと納税の返礼品ですみだモダンの商品はどの程度扱われているか					
そ の 他 特 記 事 項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 令和元年度寄付目標額：1.8億円					

予算・決算額推移（千円）		2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	3 0 年度	令和元年度
予算現額（事業費）			84,288	130,415	129,441	109,696	97,646
決算額（令和元年度は見込み）			80,890	119,013	129,058	72,685	97,646
財 源	国						
	都						
	その他		1	1	1	1	1
一般財源		0	80,889	119,012	129,057	72,684	97,645
執行率（％）		#DIV/0!	96.0%	91.3%	99.7%	66.3%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成 2 9 年度（決算）			平成 3 0 年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
需用費	消耗品購入等	3,633	需用費	消耗品購入等	3,053	需用費	消耗品購入等	3,838
役務費	郵送料等	3,339	役務費	郵送料等	1,961	役務費	郵送料等	3,258
委託料	ふるさと納税業務委託	120,835	委託料	ふるさと納税業務委託	67,669	委託料	ふるさと納税業務委託	90,550

使用料及び賃借料	寄附者情報管理システム経費	1,249	使用料及び賃借料					
事業の成果	手段に 対する指標 (活動指標)	指標	寄付キャンペーン寄付金額				単位	千円
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		145000	R7	目標	150,000	145,000	200,000	180,000
				実績	232,102	267,902	155,836	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	145,000	145,000	145,000	145,000	145,000	145,000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	北斎美術館の管理運営、資料収集、展覧会事業等の充実を図るには、寄付を募る必要があるため。目標値については、管理運営費や資料収集等に要する費用見込みを基に設定。							
	目的に 対する指標 (成果指標)	指標	すみだ北斎美術館に対する寄付件数				単位	件
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		3000	R7	目標	3,000	3,000	3,000	3,000
				実績	3752	4222	2544	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	北斎美術館事業を推進していく上では、墨田区内外からの継続した支援(寄付)が必要であることから、目標値については、寄付件数を支援者数と考えて設定。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	平成30年度は、寄付目標額を下回ったものの、継続して1.5億円を超える寄付を募ることができている。引き続き、北斎美術館の管理運営、資料収集、展覧会事業等の充実を図るため寄付キャンペーンを実施する必要がある。

課題・問題点
北斎美術館の管理運営や北斎の資料収集等には、毎年度多額の費用が発生するため、それらの財源として、寄付キャンペーンを継続して実施する必要がある。

施 策	111	郷土の歴史・文化を継承し、発展させる				部内優先順位
事 業 名	大江戸すみだ職人展事業					3
目 的	全国でも有数の「ものづくりのまち」として発展を遂げてきた墨田区において、伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に広くPRし、市場における作品の付加価値を高めていくことを目的として展示会を開催する。					主管課・係（担当）
						文化芸術振興課文化行事担当
						5608-6180
対 象 者	区民、区への来訪者					
根拠法令 関連計画	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金交付要綱					
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託	人員体制・委託先	常勤職員 3人	
事業内容	実施会場における職人の実演・伝統工芸品の展示のほか、訪れた方の興味を高め理解を深めてもらうため、職人や工芸品・制作品を紹介するパネルの展示、工芸体験を実施している。北斎美術館講座室MARUGEN100及び緑町公園で、大江戸すみだ職人展実行委員会と区が共催。 産業振興課、地域教育支援課に「伝統工芸保存会」「パルティール」等への支援事業が行われているため、本事業については、平成30年度から実施場所を北斎美術館に変更したうえでプロモーションを工夫し、リピーターや愛好家、外国人旅行者も含め、より多くの人に職人の技や制作品を目にしてもらい、関心を持ち評価してもらう事業内容とした。					
経 過	開始年度	平成20年度		終了予定		
	「すみだ匠の競演」の拡充事業として、平成20年から開催。平成20年～21年は江戸東京博物館、平成22年～23年はリバーサイドホール、平成24年～29年はすみだまち処、そして平成30年は、外国人旅行者も含めさらに多くの方に知っていただくよう北斎美術館講座室で実施した。 従来、リバーサイドホールで交互に開催してきた「匠の競演」(区の直接執行事業)と「伝統工芸展」(補助金事業)について、平成20年、来場者増加の観点から、観光課の「ぶらり両国まちかど展」とのタイアップ事業としてリニューアルし、第1回目の「大江戸すみだ職人展」を江戸東京博物館で実施した。					
議会質問 の 状 況						
そ の 他 特 記 事 項	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) 2019年は、9月20日～23日を中心に開催予定。					

予算・決算額推移（千円）		2 6 年度	2 7 年度	2 8 年度	2 9 年度	3 0 年度	令和元年度
予算現額（事業費）		1,000	1,000	1,000	950	1,200	1,400
決算額（令和元年度は見込み）		1,000	1,000	1,000	950	1,200	1,400
財 源	国						
	都						
	その他						
一般財源		1,000	1,000	1,000	950	1,200	1,400
執行率（％）		100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）								
平成 2 9 年度（決算）			平成 3 0 年度（決算）			令和元年度（予算）		
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額
負担金補助及び交付金	実行委員会への補助金	950	負担金補助及び交付金	実行委員会への補助金	1,200	負担金補助及び交付金	実行委員会への補助金	1,400

事業の成果	手段に対する指標 (活動指標)	指標	開催告知チラシの配布戸数				単位	戸
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		31,500	R7	目標	30,000	30,000	30,000	30,000
				実績	31,100	31,100	31,100	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	31,000	31,000	31,500	31,500	31,500	31,500
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	より多くの方に広く告知することが来場者数の増加につながるため。							
	目的に対する指標 (成果指標)	指標	展示会場への来場者数				単位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R 1
		9,000	R7	目標	8,000	8,500	8,500	8,500
				実績	8,769	6,440	3,802	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	8,500	8,500	9,000	9,000	9,000	9,000
		実績						
	指標の選定理由及び目標値の理由							
	展示会場への来場者数が広くPRできたことを示す指標となるため。							

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
現状維持	実施場所やプロモーションを工夫したことで、より多くの方に関心を持っていただくことができ、参加した職人も手ごたえを感じている。来場者と職人の距離が近いことがこの事業の大きな強みであるため、今後はその点をより生かした事業展開をしていきたい。

課題・問題点
産業振興課や地域教育支援課で実施されている事業との差別化を図りながら、実施方法の一層の工夫により、老若男女を問わずより幅広く関心を持っていただくことが課題である。

補 助 金 名 称	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金			主管課・係（担当）	
根拠法令	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金要綱			文化芸術振興課文化行事担当	
補助概要	大江戸すみだ職人展を実施するにあたり必要となるPR経費や設営費への補助			5608-6180	
目 的	全国でも有数の「ものづくりのまち」として発展を遂げてきた墨田区において、伝統工芸分野における優れた技術・技能を区内外に広くPRし、市場における作品の付加価値を高めていく。				
対 象	区民、区への来訪者				
基 準	区独自基準				
補助条件	大江戸すみだ職人展実行委員会補助金交付要綱 第2条 区長は実行委員会が行う次の事業に要する経費を予算の範囲内において補助金として交付する。 （1） 大江戸すみだ職人展に関する運営経費 （2） 前号に掲げるもののほか、区長が必要と認める事業の経費				
経 過	開始年度	平成20年度	終了予定		
	現在の要綱の適用以前は、「墨田区伝統手芸作品展示会補助金交付要綱」により、当時の文化振興課と生涯学習課で1年ごとに補助金を支出していた。平成20年度から「大江戸すみだ職人展実行委員会補助金要綱」により補助している。				
議会質問 の状況					
その他 特記事項	（他区の状況・年間スケジュール・関連部署等） 2019年は、9月20日～23日を中心に開催予定。				

予算・決算額推移（千円）		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
予算額（事業費）		1,000	1,000	1,000	950	1,200	1,400
決算額（令和元年度は見込み）		1,000	1,000	1,000	950	1,200	1,400
財源	国						
	都						
	その他						

一般財源			1,000	1,000	1,000	950	1,200	1,400
執行率（％）			100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
補助金の 成果	手 段 に 対する指標 (活動指標)	指 標	開催告知チラシの配布戸数				単 位	戸
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		9,000	R7	目標	30,000	30,000	30,000	30,000
				実績	31,100	31,100	31,100	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	31,000	31,000	31,500	31,500	31,500	31,500
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		より多くの方に広く告知することが来場者数の増加につながるため。						
	目 的 に 対する指標 (成果指標)	指 標	展示会場への来場者数				単 位	人
		最終目標値	目標年度		基準年(H28)	H29	H30	R1
		9,000	R7	目標	8,000	8,500	8,500	8,500
				実績	8,769	6,440	3,802	
			R2	R3	R4	R5	R6	R7
		目標	8,500	8,500	9,000	9,000	9,000	9,000
		実績						
		指標の選定理由及び目標値の理由						
		展示会場への来場者数が広くPRできたことを示す指標となるため。						
評価結果		評価についての説明・今後の方向性等						
現状維持		実施場所やプロモーションを工夫したことで、より多くの方に関心を持っていただくことができ、参加した職人も手ごたえを感じている。来場者と職人の会場での距離が近いことがこの事業の大きな強みであるため、今後はその点をより生かした事業展開をしていきたい。						

課題・問題点	
産業振興課や地域教育支援課で実施されている事業との差別化を図りながら、実施方法の一層の工夫により老若男女を問わずより関心を持っていただくことが課題である。	